

「子ども樹木博士」は、いろいろな樹木の名前や特徴などを知ることを通じて森林に親しんでもらう野外活動の一つのプログラムです。

言い換えれば樹木の名前などを通じて森林に親しむ、自然への気づきであり、自然環境を大切にできる心が芽生えることを期待した活動です。

認定書も用意されていて、校庭や学校林の樹木で簡単に、安全に活動することができます。



葉っぱの手ざわりや形、幹の特徴や名前を覚えよう！ その後にテストをして、認定書ももらったんだ！

札幌市立藤の沢小学校では森林環境教育の一環として、NPO森遊びサポートセンターの協力により「子ども樹木博士」を実施しました。

午前中の半日を3日間にわたって使い、樹木の解説を森林インストラクターが、誘導・評価を学校の各担任が分担することで円滑に実施できました。



樹木を観察している小学生

### ○出題樹種数

- ・ 1～2年生 6種
- ・ 3～4年生 12種
- ・ 5～6年生、父母 22種

### ○参加人数 児童178名 父母11名

### 子どもたちの感想文

「ぼくが一学期で一番心にのこったのは樹木博士と運動会で、樹木博士は22本の木の名前と持ちようの説明をよく聞いて問題に答えるということがむずかしくて、なかなか解けなかったけど楽しかったです。途中でサポートセンターの方に、ニガキの葉をもらって食べてみたらとても苦かったので思わずはきました・・・。

二学期には樹木博士と運動会のように楽しい思い出ができるように自分の仕事は最後までやって、無駄なくてきばきと行動したい。」

「ミズキの葉をちぎってみたら、白い糸が出てきた！ニガキの葉を食べたらすごく苦かった。木にちょうしんきを当てて音を聞いたら「カツン、コココ」という音が聞こえた！ノリウツギの枝をひっかくとぬるぬるする・・・！」



ほくも、わたしも「はかせ」になった

(子ども樹木博士認定活動推進協議会は (社) 全国森林レクリエーション協会内に事務局があります)